

教員長期社会体験研修 10～12月期 研修報告

研修先：株式会社アドバコム エコチル編集部／札幌
研修者：札幌市立中央中学校 野呂 綱衛

【札幌市青少年山の家取材】

携わっている YouTube 生配信番組制作のため、月に1回程度のペースで、札幌市にある様々な施設の取材を行っている。10月は「札幌市青少年山の家」を訪れた。この施設は、毎年、札幌市内の多くの小学校が利用している。札幌市青少年山の家では、子ども達にこれからの社会で逞しく生きていくためのプログラム開発が進んでおり、学校への出張授業も行っているが、防災教育と自然に触れるプログラムを大きな柱としており、「子ども達が実際に体験し、考えながら納得解に辿り着くことができるようなサポートを心がけている。」と職員の方がお話しされていた。「やってみないと分からない」ということで、私も薪割り体験をさせていただいた。木の種類や状態によって、刃の入り方や必要な力加減の違いが分かった。



薪割り体験の様子

学校は、オンラインでもオフラインでも様々な施設や人との繋がりがより大切になっていくであろう。その時、「子ども達にどのような力をつけてほしいか、どのように成長してほしいか」という思いが共有できていれば、地域や人、施設と共に生み出せる教育効果は大きなものになる。

<参考>これまでの取材先…北方自然教育園、定山溪自然の村、札幌市環境プラザ、滝野自然学園
札幌市青少年山の家

【スポチル事業～地域のジュニアスポーツ応援企画】

株式会社アドバコムでは、「エコチル」の他に、「スポチル」という紙媒体も不定期で発行している。今年度は、ジュニアスポーツ応援企画ということで、ジュニア野球チームを紹介する「スポチル」を札幌市の一部地域で発行、配布した。私は、取材全般、紙面ほぼすべての記事制作、10分程度のジュニア野球チーム紹介スペシャルムービー制作に携わった。



スポチル栄町エリア特別版巻頭記事

多くの地域ジュニアスポーツが、部員・団員の減少に伴い、チームの消滅、合併、活動継続不可能の危機に瀕している。今回のスポチル事業がジュニアスポーツの活性化や、子ども達が運動に興味をもつきっかけとなればうれしい。

【エコチル全国展開～レッツトライエコライフコーナー協力依頼】

子ども環境情報紙「エコチル」の全国展開を進めている。私は「レッツトライエコライフコーナー」という小学校の校長先生に学校の取組などを紹介してもらうコーナー取材を全国の教育委員会や学校に依頼している。

主に電話やメールで取材依頼しているが、非常に難しい。北海道や札幌市では校長先生方の御協力で毎月順調に進めることができているが、全国展開となると、エコチル紙面が発行されていない府県へのお願いとなるため、まず自分達が何者であるか、何を目標しているかをしっかり伝える必要がある。中には、協力していただける府県もあるが、取材協力依頼数に対して決して多くはない。どのように説明すれば思いが伝わり、協力してもらえるかを日々考え、試行錯誤しているところである。

【環境広場さっぽろ 2021 バーチャルツアー開催に向けての取組】

2019年度までは札幌ドームを会場として開催していた「環境広場さっぽろ」だが、昨年度はオンラインで行われた。2021年度についてもオンラインイベントとなり、2022年1月8日（土）～14日（金）の日程で開催される予定である。株式会社アドバコムが札幌市とタッグを組んだ大型イベントであり、早い段階から準備が進められてきた。多くの出展、協賛が集まり、参加者が楽しく環境やエコ、SDGsについて学ぶことができる構成となっている。

実施に向けての準備には、2021年8月に開催した「エコチルまつりバーチャル2021」の経験が生かされている。例えば、見通しを立てやすくなったことでより計画的に準備を進めることができる。また、定期的に短時間でもミーティングを行うことで進捗を共有できる。

何かを行ったら振り返りの機会を設け、話し合うことでよりよい方法などを見つけることができたり、共通理解を生み出したりすることができる。「走りながら進める」ということも情勢的に必要かもしれないが、時には立ち止まり、検証し、改善策などを確認するということが大切であると改めて実感した。



環境広場さっぽろ 2021 バーチャルツアー
ポスター画像

【3か月間のまとめ】

この3か月間については、通常業務をこなしながら、前述した「環境広場さっぽろ 2021 バーチャルツアー」に向けての準備の多くの時間を費やした。土・日・祝日、学校も部活動などが行われているが、民間企業もこのような大規模イベント実施となると、休日の業務（打合せ、取材、撮影）が多いこともわかった。私は2022年1月8日（土）～10日（月・祝）開催のライブ配信ステージ等を担当しているが、出演交渉や打合せを通して様々な人との出会いがあった。多岐に渡る分野で、活躍している方々のお話を聞いたり、取組を見たりすることはとても刺激になっている。

この報告書作成段階でも準備に追われているが、このような時こそ出演者や番組制作関係者とのコミュニケーションを大切にしたいと思う。